初心を忘れず、臥薪嘗胆！

大東四條畷消防本部　人事課
消防士長　荻野　主馬（平成２７年入職）

【行動がきっかけに】

私は、将来について漠然としか考えていませんでしたが、小学校から大学までサッカーをしていたこともあり、体力を活かせる仕事がしたいと考えていました。本格的に就職活動が始まり、将来について考えていた時期に東日本大震災が発生しました。当時在籍していた大学のサッカー部で災害にあった方に「何かできることがしたい」ということになり、募金などのボランティア活動をしました。そのときに「人の役に立てる仕事がしたい」と思うようになり最初に思い浮かんだのが消防士という仕事でした。消防士について調べたり、消防士として働いている学生時代の友人の話しやニュースなどで消防士が現場活動をしているところみて、消防士に憧れを持つようになり、大東四條畷消防本部を受験しました。

【縁の下の力持ち】

消防学校修了後、消防隊として勤務していました。消防士という仕事は普段見ることのない悲惨な現場や精神的にしんどい現場もあります。しかし、事故にあって不安を感じている傷病者に声をかけて不安を取り除いてあげたり、心肺停止状態の傷病者に胸骨圧迫などを施し社会復帰できたことなど「人の役に立てた」と感じることができる仕事だと思います。

現在は人事課で勤務しており、人事課は直接市民の方々を助けに行くことはなく、職員の給与、研修派遣の申込みや現場活動で必要な物品の購入など職員をサポートするのが仕事になります。また、当本部の未来を担う新しい職員を採用するための試験や説明会などの開催も人事課の仕事になります。

思い描いている消防士っぽい仕事ではありませんが、職員一人ひとりが１００％の力を発揮してもらえるようにサポートし、職員を介して、間接的に市民の方々の命や財産を守っていると思っています。また、新しく採用された職員が消防士として成長していく姿をみることができるのは人事課としてすごくやりがいを感じています。

【諦めない気持ち】

私自身、消防士になかなかなれず、大学卒業後は消防士とは全く関係のない民間企業で仕事をしていました。仕事をしながら採用試験の勉強や体力トレーニングをするのはとても大変でした。正直、何回も「もう諦めよ。なんでこんなにしんどいことしてるんやろ」と考えることがありましたが、「なぜ消防士を目指したのか」を振り返り、初心に戻ることで、自分自身を奮起し、諦めずに頑張れたと思っています。また、この経験が自分自身の自信にも繋がっています。

受験生のみなさん、採用試験に向けて勉強や体力トレーニングで、しんどい思いや不安を感じることがあると思いますが、「消防士になりたい」という強い気持ちや情熱を思い出して、自分自身を奮起してください。その強い気持ちや情熱は必ず試験官に伝わります。

採用された際は、大東四條畷消防組合を一緒に盛り上げ、市民の方々を守っていきましょう。